

平成 29 年度 幼児保育学科 学修成果の評価指標【学生用】

【共通】汎用的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

到達目標の詳細は、「キャンパスライハンドブック」を参照。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	Level 3	
1) 自我意識を持って意見や立場を理解し、自律的意識をもって協調する態度を身につけることができる。 ① 自分の意見を自律的に分かりやすく人に伝えることができる。 ② 相手の意見を丁寧に聴き、意見の違いや立場の違いを理解して協調した対応ができる。	小グループの活動のなかで、十分ではないが自分の思いや考えを伝えようと努めている。相手の背景や立場に合った理解や、話すときの表現を工夫するまで至らないが、意見をきちんと傾聴することはできる。	小グループの活動のなかで、自分の考えを伝え、また相手との違いを理解することができる。自らの発言の責任と、相手に配慮して協調した対応は少しはできる。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えよう努めている。	集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する態度がとれ、自分の発言や行動に責任を伴うことについて十分でないが理解できている。主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。	授業内外の組織、集団的活動のなかで、立場の違いや状況を適切に判断して相手の思いや考えを傾聴、理解し、共感することができる。必要に応じて配慮する行動がとれ、また自分の発言や行動に責任を伴うことを理解したうえで、主体的に自分の思いや考えを、表現方法を工夫し、効果的に相手に伝えることができる。
2) 社会規範に沿った倫理観をもち、社会の一員としての責任をもつことができる。 ① 自己の良心と社会規範に沿った倫理観の下の対応ができる。 ② 社会のルールや人との約束を守って社会の一員として責任を持って立ち居振る舞い対応ができる。	関連法令を理解し遵守している。人との約束などについてある程度は守れている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識しはじめたところである。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて守ろうと努めている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることをある程度認識、理解でき、一部は実際に責任を持った行動がとれる。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについてきちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。変化する社会環境に対して世界的視点を備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。	関連法令を理解し遵守している。交わした約束などについて、十分なコミュニケーションを図ったうえで、きちんと守っている。自らの取組みや活動について、他者・社会・自然に対して責任や責務を負っていることを認識、理解でき、実際に責任を持った行動がとれる。変化する社会環境に対して世界的視点を備え、自己の良心に基づいて社会規範に沿った責任行動がとれる。
3) 将来目標に向けた自立的志向、ライフスタイルに応じた生涯学習志向を持つことができる。 ① 社会規範に沿った基本的な生活習慣や、自己の健康・体力を管理することができる。 ② ストレスの発生源に対して自律的かつ柔軟に対応し、危機管理を行うことができる。 ③ 自主的に将来の目標に向かって自立学習をすることができる。	日常生活の基本的な管理はできており、社会規範に沿った自己のライフスタイルについて考え始めている。自分のストレスを察知し、十分でないが、これ以上蓄積しないよう行動することができる。授業で要求されることの前を、知識を自立的に追及することに興味を持つことができる。学習内容や日常の出来事について、過去の学修・経験を浅いレベルで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持をある程度管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできる。普段に自分のストレス発生源を意識し、様々な状況下で変化するストレスに少しは対処でき、自分に合った方法で解消している。授業で要求されること以上に、関係する知識を追求し、自立的に学習経験を追及することに興味もてる。学習内容や日常の出来事について、以前よりいかに広い見方ができ、過去の学修・経験をある程度の深さで再検討できる。	日常生活の習慣、健康維持を積極的に管理できており、社会規範に沿って自己のライフスタイルがイメージできている。普段に自分のストレス発生源を意識しており、自分に合った方法で解消しており、変化する環境のなかで生じるストレスへの適切な対応ができている。知識を追求されること以上に、しっかりと付加的な知識を追求し、自立的な教育経験を能動的に追及する。教育的・日常的出来事について以前より広い見方を示し、過去の学修・経験を深いレベルで再検討している。	日常生活の習慣、健康を維持・向上させるために積極的に、かつ計画的継続的に管理しており、複数の共通科目を履修し、ライフスタイルをイメージできている。普段のストレスや変化する環境の中で生じるストレスの発生源を意図的に把握しており、自分に合った方法で解消または上手に付き合えることにより、自分自身の興味と追及し、授業で要求されること以外にも、自分なりに学習している。過去の学修・経験を深く振り返って、教育的・日常的出来事について見方を広げ、将来の目標や計画に向けて、長期間にわたって知識や経験を自立的に追及している。
【教養ある社会人としての基礎力】(知識・理解)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
1) 人文科学、他文化や異文化に関する知識を身につけ、人間性への理解を深めることができる。 ① 人文科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ② 多文化や異文化に対する認識と理解を持って知識を身につけることができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。1科目以上の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。実際の認識は浅いと思うが、物事に多面的な関係性があることは分かる。他者の文化的背景を踏まえた言動はほとんどできていないと感じる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常生活に活用することができる。物事の多面性と多様な関係性、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに少しは気付くことができるので、少しは考えて他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、与えられた課題はきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、専門分野や社会との関係性がある程度は分かるので、授業以外で学修内容を日常生活に活用することができる。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮ができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。複数の共通科目を履修し、人文科学や多様な文化に関する内容を学修した。その学修のなかで、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修成果は、その授業以外に、専門とする分野や社会生活との関連性を理解し、関連する事柄に対する発言や行動は、場面に応じて学修した内容を使用することができる。物事の多面的な関係性があること、また学んでいない他の分野や事柄との結びつきに気づき、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性に関する理解を深めるために自ら学びを深めており、人間に活かしている。
2) 社会科学・自然科学に関する知識を身につけ、物事への理解を深めることができる。 ① 社会科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。 ② 自然科学に関する知識を基に物事を理解し、処理することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。少なくとも1科目以上の社会科学・自然科学に関する学修をしており、履修科目の授業や与えられた課題を評価される程度にこなしている。まだ専門分野や社会と関係付けた考えができていないが、知識として内容はきちんと身に付けた。自然や社会的な事象について、情報が意味するものとは間違った解釈・結論を導くこともあれば、数学的形式の情報説明を試みている。結論にまで結びついていないが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用している。単純な情報の変換は完了できる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。複数の共通科目から社会科学・自然科学に関する知識の修得を完了し、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性に関する理解を深めるために自ら学びを深めており、人間に活かしている。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。複数の共通科目から社会科学・自然科学に関する知識の修得を完了し、履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を理解している。物事に多面的な関係性があることを認識し、学んでいない他の分野や事柄との結びつきが理解できるので、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性に関する理解を深めるために自ら学びを深めており、人間に活かしている。	修了した学期において、汎用的能力要素【知識・理解】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなしている。身に付けた学修内容は、その授業以外で、専門とする分野や社会生活との関連性を認識し、日常生活に活用・応用している。物事に多面的な関係性があることを認識しており、学んでいない他の分野や事柄との結びつきに気づき、他者への言動の配慮や働き掛けができる。人間性に関する理解を深めるために自ら学びを深めており、人間に活かしている。
3) 将来社会生活・職業生活に向けた基礎知識を身につけ、生活での多様な役割や意義に関与する理解を深めることができる。 ① 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていくことができる。 ② 職業生活・社会生活に必要な基本的な常識を身につけることができる。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般常識・常識が必要であることはあまり意識していない。学習内容ほか新聞記事やニュースなどの日常的話題や基礎知識と、実際の自分との関連性を時々考えることがある。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般常識・常識が必要であることと理解している。個々の知識の関連性と自己との関係性について意識している。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題から、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性を認識している。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすことができる。将来の社会生活・職業生活にとって、一般常識・常識などの汎用的知識が必要であることを理解している。個々の知識の関連性と自己との関係性を理解するに及ぶにつれて、一般常識・教養に自分との関連性のある基礎・汎用的な知識に関心を持っており、将来関係する基礎知識の必要性に気づき、部分的に知識の獲得に努めている。	履修科目の授業や与えられた課題をきちんとこなすこと、自己との関係性をなめて明確な役割や意義を見出し理解を深めている。将来の社会生活・職業生活にとって、一般常識・常識などの汎用的知識が必要であることを理解しており、授業外での活動で教養を深めている。授業内容、新聞記事や日々のニュースなどの日常的話題において、一般常識・教養の自分との関連性を認識し、日頃から知識を獲得している。
【社会人としての汎用的能力】(技能・表現)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
1) 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち少なくとも1つは日常生活において不自由しないレベルにある。学修は授業のなかで完結している。日常に活用するまででないが、授業外の活動で部分的に活用している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、最低限の注意は払うことができる。用語法を誤らすが、基本的な構成や提示において一貫した体系を使うように気をつけている。話において、中心的なメッセージは推測してもらえ、プレゼンテーションは構造的なパターンを部分的にはつづける。自分の話し方は、まだ相手の理解の妨げとならないと考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既存の事柄のことから推定することができる。適切な情報、さらに望ましい科学・数学的表現に完全に交換できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。語学力の4要素(読み・書き・聞き・話す)のうち3つは日常生活において不自由しないレベルにある。継続的ではないが、学修は授業内だけでなく、関心をもって学修・活用を努めている。テキストの情報を適切に捉え、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点を当てており、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用できる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージを明確に伝えることができ、プレゼンテーションは一貫した構造的なパターンでつづることができる。自分の話し方によって、相手に興味深さを与えることができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。授業の課題をこなすことができる。また自ら学びを示すことができる。語学力の4つ(読み・書き・聞き・話す)が全て日常生活において十分なレベルにある。学修は、日常において自ら学修をすすめており、学修内容は授業外において十分に活用できている。テキストの情報を超越する問題に対して、テキストが含むものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあてており、特定の学問や文章作成課題に求められる幅広いルールに細かに注意を向け遂行できる。文章の誤りは殆どない。話において説得力をもって中心的メッセージを伝えることができる。話し方は、プレゼンテーションを説得的に使用することができ、洗練されており、自信をもって伝えることができる。
2) 自然や社会的な事象について、シンボルを活用して分析、理解し、表現することができる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。計算などの分析を試みている。論拠を並べ立てることはできるが、整理し、問題の焦点と関連付けはしていない。結論はあいまいで、筋が通らないことがある。単純に情報の変換は完了できる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既存の事柄のことから推定することができる。適切な情報、さらに望ましい科学・数学的表現に完全に交換できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既存の事柄のことから推定することができる。適切な情報、さらに望ましい科学・数学的表現に完全に交換できる。	修了した学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。行われた分析は基本的には全て成功しており、十分に問題解決できる。論拠を整理して、問題の焦点と関連する重要なパターン、違い、類似性を明らかにすることができる。結論は、得られた結果から、論理的に既存の事柄のことから推定することができる。適切な情報、さらに望ましい科学・数学的表現に完全に交換できる。
3) 将来社会生活・職業生活に必要な基礎的スキルを身につけ、問題を見出し解決することができる。 ① 情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 ② 情報や知識を複眼的・論理的に分析して物事を考え、その結果を文書や発言として表現できる。 ③ 問題を見出し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。 ④ 職業生活・社会生活に必要な基本的な所作やマナー、文章作成、必要に応じた技能検定資格等を身につけることができる。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICT(情報通信技術)の基本的ツールを、十分ではないが活用することができる。情報は、自分の偏った見方から収集しており、また系統立ててまとめまでには至らないと言える。あるいは、課題の意図に沿わずに情報を拾っている。課題に対する結果の内容は、論理的になく、あいまいである。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付けたが、授業外でわずかに転用・応用できている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に活用することができるが、効果的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲のある一定の深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿ってある程度の深さをもって論じることができる。文章は論理的な観点から明確である。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から問題を見出し、解決を試みることができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも転用・応用できている。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じており、諸々の資格取得を考えている。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に活用することができるが、効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲を十分に深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿って十分な深さをもって論じており、文章は論理的に明確である。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から諸問題を見出し、解決策を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも転用・応用できる。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じ、実際に資格取得に向けた学修を自ら行っているか、あるいは取得している。	情報の取扱いの法令を遵守し、与えられた課題の解決ができる。ICTの基本的ツールを十分に活用することができる。効果的かつ発展的に活用できる。収集された情報は、文脈に関連する範囲を十分に深さで収集し、系統立てることができる。結果の内容は、課題の意図に沿って十分な深さをもって論じており、文章は論理的に明確である。課題解決のなかから、関連する情報との関係性から諸問題を見出し、解決策を見出すことができる。授業のなかで生活に必要な基本的な所作・マナー、文章作成を身に付け、授業外にも転用・応用できる。授業外に諸々の技能検定資格等について、今後の必要性を感じ、実際に資格取得に向けた学修を自ら行っているか、あるいは取得している。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
1) 物事に進んで取り組み、他人との協調のなかで行動することができる。 ① 物事に進んで取り組み行動することができる。 ② 他人に働きかけを行い、巻き込みながら行動することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。チームの考えや意見などを共有するが、受動的に受入れている。他のメンバーから促されることで発言でき、意見を傾聴することでグループ活動に参加できる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らの成果はプロジェクトを前進させる基盤である。対立する考えや意見から離れ、共通する価値や当座の課題に目を向け直すことができる。他のメンバーの見方を言い直すか、明確にする質問をすることなどで、話し合いを促進することができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らの成果は徹底し、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。対立する考えや意見は認識し、把握したうえで取組みを続けることができる。他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進すること、他のメンバーをチームの活動に参加させることができる。	与えられた課題や活動に参加することができる。自らの成果は徹底し、包括的であり、プロジェクトを前進させるものである。他のメンバーが与えられた課題を自分と同じレベルで完済できるように率先して助けけることができ、破壊的な対立する考えや意見において、直接言及し、チーム全体の結束を効果的に高めるやり方で、対立に取組み解決することを建設的に助けることができる。参加していないメンバーに気づき、参加を促すとともに、他のメンバーの貢献を建設的に積み重ね、統合するなどして、話し合いを促進することで、チームの活動に参加させることができる。
2) 目的を設定し、将来設計に沿って確実に行動することができる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。明確な自らの目的はまだ見出せるまででないが、課題や活動のなかで自己の将来ビジョンとのつながりを少しは考えられる。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。行動の証を示せるまででないが、課題や活動のなかで自己の将来ビジョンとのつながりを見出して、明確な自らの目的を設定できている。	与えられた課題や活動に対して目的を理解し、取り組むことができる。行動の証を示せるまででないが、課題や活動のなかで自己の将来ビジョンとのつながりを見出して、明確な自らの目的を設定できている。	与えられた課題や活動の目的を理解し、取り組むことができる。課題や活動のなかで自己の将来設計とのつながりを見出し、明確な自らの目的を設定でき、それに対する行動の証を示すことができる。
3) 獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、経験から新しい価値や課題を見出し解決することができる。 ① 経験を基にさらに新しい価値を生み出すことができる。 ② これまでに獲得した知識、技術・技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。	与えられた課題や活動とその授業の学修内容だけで解決している。経験や知識は、その授業以外のこととは連続しない個々のものとして捉えている。	与えられた課題や活動とその授業以外の経験を総合的に活用できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をすすめるまでには至らない。	与えられた課題や活動とその授業以外の経験を総合的に活用できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出すことができる。個々の経験や知識について、連続する総合的な見方をすすめるまでには至らない。	与えられた課題や活動とその授業以外の経験を総合的に活用できる。その課題からは、自らの考えや価値、新たな課題を見出し、個々の経験や知識が連続する総合的な見方ができている。自ら立てた課題の解決がされておらず、新しい価値を見出している。

専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
1) 保育職の社会的使命と職業倫理について理解している。	保育者の仕事は、子どもと一緒に遊ぶだけでなく、社会的に正しいことを教え込むことでもなく、子どもの健全な心身の発達を支え、必要な援助をしていくことだと理解している。保育者に課される守秘義務と職業倫理があることを知っている。	保育者が子どもの健全な心身の発達を支え、必要な援助をしていくために、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行っていくことが基本であることを理解している。保育者に課される守秘義務と職業倫理について、具体的に説明することができる。	保育者の役割には、子どもとの直接的なかかわりだけでなく、保護者の実情に寄り添い、共感しながら、保護者を支えていく相談者としての役割があることも理解している。実習等の保育現場において、保育者に課される守秘義務と職業倫理を順守することができる。	保育者の役割は、子どもとの直接的なかかわり、保護者を支援する相談者だけでなく、保育の専門職として子どもに関する発想や理念を社会全体にする発信するなど、多様な役割を担っていることを理解している。実習等の保育現場において、保育者に課される守秘義務と職業倫理を順守し、周囲と協働しながら、保育者として成長し続ける努力をしている。
2) 自らの保育を振り返ることの重要性を理解し、それに基づいて改善することができる。	記録をとる重要性とその方法を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について記録を取ろうとしている。保育を振り返ることの重要性を理解し、謙虚な姿勢で自己の保育を分析し評価しようとしている。	記録をとる重要性とその方法を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について記録がとれるようになりつつある。保育を振り返ることの重要性を理解し、子どもの内面理解と保育者の指導過程の両面について分析し評価しようとしている。	保育の記録をとる重要性を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等について適切な方法で記録を取ることができる。保育の記録等にもとづいて、子どもの内面理解と保育者の指導過程の両面について客観的に分析・評価をし、次の保育の改善に生かそうとしている。	保育の記録の重要性を理解し、クラスや子どもの様子、保育者のかかわり等の相互間の関係性を重視して、適切に記録を取ることができる。保育の記録等にもとづいて、客観的に自己評価や保育全体に関する評価ができ、今後の保育に必要な視点や方向性を検討し、指導計画の改善に生かすことができる。
3) 子どもや保護者に共感的態度を持って接することができる。	どのような状況の子どもに対しても安定した気持ちで関わろうとしている。実習やボランティア経験、日常生活を通して保護者と子ども、保護者と保育現場の関わりを観察しようとしている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止めようとしている。実習やボランティア経験、日常生活を通して保護者と子ども、保護者と保育現場の関わりを観察し、保護者との関わりについて自分なりのイメージを持っている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止め、共感することができる。現代の子育て家庭が置かれている状況や、実習などの保育現場での経験を踏まえて、一人ひとりの保護者の状況やその意向を理解・受容して、保護者と関わろうとしている。	子どもに対して安定した気持ちで関わり、一人ひとりの表情やしぐさ、つぶやきを丁寧に受け止め共感し、子ども一人ひとりに応じた言葉かけや援助ができる。一人ひとりの保護者の状況やその意向を理解・受容して、それぞれの親子関係や家庭生活等に配慮し、専門機関と連携しながら適切に支援することができる。
【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 保育の役割・機能・保育者の責務を理解している。	保育は養護と教育が一体的に展開されるため、まず子どもの心をしっかりと受け止め、相互的なやり取りを重ねながら、子どもとのかかわることが重要であることを理解している。不審者の侵入や火災、地震、重大事故や食中毒の発生等、子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の対応について説明できる。	保育は養護と教育が一体的に展開されるため、子どもの心をしっかりと受け止めるとともに、子どもの育ちを見通し援助する時には、身体の発育と心の育ちの両面に目を向けている。不審者の侵入や火災、地震、重大事故や食中毒の発生等、子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の危機管理について日常的に検討し、子どもの安全に留意した適切な対応について理解している。	養護と教育の一体性の意味を理解し、子どもを一つの主体として尊重し、その命を守り、情緒の安定を図りながら、乳幼児期にふさわしい体験が積み重ねられるよう援助している。また、養護と教育の視点から、自らの保育を振り返り評価しようとしている。子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時の危機管理について日常的に検討し、緊急事態発生時には、子どもの安全に留意し適切に行動することができる。	養護と教育の一体性の意味を理解し、子どもを一つの主体として尊重し、その命を守り、情緒の安定を図りながら、乳幼児期にふさわしい体験が積み重ねられるよう援助している。また、養護と教育の視点から、自らの保育を振り返り評価しようとしている。子どもに大きな影響を及ぼす恐れのある事態が発生した時には、子どもの安全に留意し適切に行動できるとともに、専門職と連携して、子どもとその家族への精神保健面へのサポートをすることができる。
2) 発達過程や個々の特性に応じた支援の方法を理解している。	乳幼児期の発達段階に関する知識を持っており、各段階における発達の目安と適切な過ごし方について理解している。	同じ月齢や年齢の平均的・標準的な姿に合わせた保育にとどまるのではなく、子どもの発達は心身共に個人差が大きいことに配慮して、保育を展開している。	心身の発達の個人差に加え、子どもの活動における個人差にも配慮し、一人一人の活動の実態を踏まえようとして、その子どもの興味や関心にそった環境を構成することができる。	子どもの心身の発達や活動の実態などの個人差を踏まえ環境を構成するとともに、さまざまに変化する子どもの気持ちや行動を受け止めて、適切な援助をすることができる。
3) 各領域の保育のねらいや内容・方法を理解し、総合的に指導することができる。	保育の内容における「ねらい」及び「内容」は、「養護」と「教育」の2つの側面に分けて示されており、それは保育の諸目標を具体化したものであることを理解している。	養護にかかわるねらい及び内容は、「生命の保持」と「情緒の安定」に分けて、「ねらい」と「内容」が示されている。一方、教育にかかわるねらい及び内容は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域から構成され、この5領域ごとに「ねらい」と「内容」が示されていることを理解している。	「養護」と「教育」の両側面を切り離して考えるのではなく、「生命の保持」と「情緒の安定」を図る「養護」の活動と5領域から構成される「教育」の活動が相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるような保育を心がけている。	「生命の保持」と「情緒の安定」を図る「養護」の活動と5領域から構成される「教育」の活動が相互に関連し総合的に展開するなかで、子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、ねらいや内容を柔軟に取り扱いながら保育をすることができる。
【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) ねらいに応じた教材の作成や保育環境を構成することができる。	子どもが環境との相互作用によって成長・発達していくことを理解し、子どもの状況により、さまざまに変化していく環境にしていくことが重要であることを理解している。	子どもが興味関心をもち、それまでの経験で得た様々な能力が発揮できるよう工夫して環境を構成している。また、子ども自らが環境を再構成したり、環境が変化したりすることを子どもたちと共に楽しむことができる。	ねらいや内容につながる必要な経験を子どもたちが得られるように、子どもの興味や関心だけでなく、生活の流れや発達の筋道、安全や健康などを考慮して、総合的に環境を構成しようとしている。	具体的に設定したねらいや内容に対して、子どもが保育の中で実際に経験できるように物、人、時間、空間などの環境を総合的に構成している。またその時に、清潔で安全な環境、家庭的な温かな環境を基盤に、子どもが環境に自分から関わる意欲が生み出されるよう魅力的な環境を設定している。
2) 子どもの主体性を尊重し、子どもの反応に臨機応変に対応しながら保育を展開できる。	保育実践は、子どもの生活実態を理解し、その生活を見通して作成した指導計画をもとに、柔軟に実践されることを理解している。	保育実践では、子どもたちの活動は保育者の予想通りとはなるとは限らない。当初の計画にこだわることなく、子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開しようとしている。	保育実践において、子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開しようとする時に、子どもの成長や発達にとって望ましい方向へ向かって、子ども自らが活動を展開できるように配慮することができる。	指導計画にもとづき子どもの活動の変化に応じた柔軟な保育を展開することができる。また、一緒に遊ぶ、共感する、助言する、提案する、環境を再構成するなど多様な援助をおこない、子どもの主体性を促し、情緒の安定や豊かな経験が得られるように配慮することができる。
3) 保育現場で求められる専門的技術の基礎・基本を身に付け、多様な表現ができる。	素話、絵本、手遊び、ペープサートなどの手作り児童文化財、歌遊び、絵を描くことや製作などの造形遊び、ルールのある遊びとしてのゲーム、体を使った運動遊びなどの保育実技全般について、恥ずかしいと感じることなく、全身を使って実践することができる。	素話、絵本、手遊び、ペープサートなどの手作り児童文化財、歌遊び、絵を描くことや製作ゲーム、体を使った運動遊びなどの保育実技全般について、子どもたちの年齢や発達に合わせたものを選択し、全身を使って実践することができる。	さまざまな保育実技をいつでもどこでも行えるように常に準備をしており、子どもたちにとって魅力のある提示の仕方や分かりやすく楽しむ様々な工夫をおこなっている。	さまざまな保育実技について、魅力のある提示の仕方や分かりやすく楽しむ様々な工夫をしながら実践し、子どもたちの生活や心を豊かにすることや、子どもたちの発達を助長することなどに寄与することができる。
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 子どもの遊びに応じて、保育環境を構成することができる。	子どもが自分から環境にかかわり遊ぶためには、幼稚園でも保育所でも認定こども園であっても、環境構成をおこなうことが必要であることを理解している。	意図的な環境づくりをおこなう時、自分が考えた環境を構成するのではなく、子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもの姿から環境を作ろうとしている。	子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもの姿から意図的に環境を構成し保育を実践するとともに、保育中に事前に用意した環境と子どもたちの興味・関心等にズレがないか絶えずチェックしている。	子どもの今の育ち、興味関心などを読み取り、子どもとの姿から意図的に環境を構成し保育を実践するとともに、保育中にその場の状況や子どもたちの活動の様子に応じて、環境構成を見直ししながら、柔軟に対応することができる。
2) 子どもの興味・関心を基礎とした保育における豊かな感性を発揮することができる。	日頃から芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどに興味関心を持ち、保育者としての感性を磨こうとしている。	保育者としての感性を高めるため、日頃から芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどに興味関心を持つだけでなく、それらと子どもの生活とのつながりについて考えている。	芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどの中から興味関心を持った事項について探求し、そのなかで得た実感や知識、経験を子どもに伝えようとしている。	芸術や文化、自然、社会事象、異文化、自分の属しているサブカルチャーなどの中から興味関心を持った事項について探求し、そのなかで得た実感や知識、経験を子どもに伝えることを通して、子どもたちの心情・意欲・態度を育てようとしている。
3) 保育において多様な他者との信頼関係を築くための働きかけを行うことができる。	保育者には子どもとのコミュニケーションだけではなく、地域・保護者・社会など幅広い人間への対応、コミュニケーション能力が求められることを理解している。	保育者に求められるコミュニケーション能力の重要性を理解するとともに、園内の他の教職員や専門職員と情報交換するなどして、子どもや保育について共通理解を図り連携をすることができる。	園内の教職員はもちろん、保護者とも良好な連携関係を築くために、日頃から機会をとらえてコミュニケーションをとっている。また、園からの保護者への情報提供に努めるとともに、保護者から園への要望・ニーズをくみ取るようにしている。	日頃から園内の教職員、保護者と良好なコミュニケーションを維持している。また、子どもの育ちに関する問題が起こった場合には、専門機関と緊密な連携を取りながら、子どもの発達を支え、保護者の心配な気持ちを支えることができる。

I【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
① 自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できており、継続して良好な健康を維持できている。
② 自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、不十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されるもこれを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③ 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切までに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切までに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題は締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題は締切までに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要さチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけ、メンバーに励ましや支援を与えることができる。
④ 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民的意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかを振り返ることができる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動から、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民的意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかを振り返ることができる。
⑤ 生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持てる。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持てる。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に興味を持って探究することができる。仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外の異なる状況に応用することができる。その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げる事ができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。
II【教養ある専門職業人としての基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりに関して意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能の学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
② 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限度達成している。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりに関して体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりに関して体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達度が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりに関して体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③ 上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と、自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いると試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を参考に発展的に考えることができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意義深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。
III【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意をはらい、基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなくなりが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとならないとえられる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、いくつかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的に伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができている。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報を対して、より複雑な推論を行うために、一般的な特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成が利用できる。話術においては、相手興味深く聞いてくれる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を越える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは少ない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得力である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
② 自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期末において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報解釈・結論を少しは説明できる。結論にまで結びつけないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完了することができる。※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的事象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報のある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分な根拠を持って結論を導くことができる。情報の変換は完了することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切なものは正確である。	修了学期末において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、結論は筋が通り適切である。適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期末において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達度を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断して使用でき、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。
③ ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の1つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じてある程度の ICT 活用ができる。単純な検索方法を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の2つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方法で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の3つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方法で、適切な情報ソースを効果的に活用して情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ・要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同一視している。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を特定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を特定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合でき、意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法論的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合でき、意図された目的は完全に達成できている。
⑤ 問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチクエスションやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念的・部分的に関連付けするか、リサーチクエスションに答えることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチクエスションやテーマの範囲を十分に限定しており、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念的・部分的に関連付けるか、リサーチクエスションに答えることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチクエスションやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念的・部分的に関連付けるか、リサーチクエスションに答えることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。
IV【地域生活を支援し、創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 上記I～IIIの態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功が失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味と類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを特定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修による自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている事例を示すことができる。	複雑な社会の下の置かれる自分の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意義深く統合していることが、事例で示すことができる。
② 地域での実践活動をもとに、上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事柄について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(非社会人)としてはっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション力(プレゼンテーション力、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探求を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。
③ 上記I～IIIの知識・技能・態度・志向性の総合的知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまでの学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びのある程度の深さで再検討している。	これまでの学んできたことの意味を十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤を築いている。

